

# 溪声

第13回

## ほたる

### の里の 環境調査に参加して

今年も和仁農園さん主催の「ほたるの里の環境調査」が8月26日に行なわれました。本郷小学校の4,5年生22名が参加し、当社からは3名がお手伝いに行きました。

最初に見座浄化センターで、実際の施設を見ながら、家庭からの汚水が浄化される仕組みを学びました。

その後川へ移動し、水棲生物調査(カワゲラウォッチング)と稚魚を放流しました。次に浄化センターと高原川の水を採取して臭い、アンモニア性窒素、透視度を測定し、浄化センターから出る汚水が処理されてきれいな水となっていること、また、高原川の水がどれだけきれいかを体感しました。

最後にホタルの一生を学び、きれいな水がホタルにとってどれだけ重要か、川を汚さないために家庭で排水を出す際に注意しなければならないことを確認しました。

現場を見て、実際に触れてみて、体験する貴重な学びの場です。故郷への思い、環境への意識が高まるきっかけになると思います。和仁さんをはじめ、関係者のみなさんが、これからもずっと続けていきたいと願っていらっしゃいます。当社もできる限りのお手伝いをさせていただきたいと思います。



# あが町のボランティア



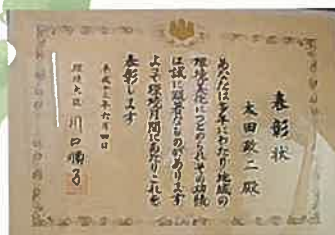
神岡町で個人的にボランティア活動をしていらっしゃる方お二人をご紹介します！



地域の小さな社会奉仕が信条。

## 太田 政二さん 東雲

- ・平成13年に川口順子環境大臣から表彰されました。
- ・岐阜県知事、神岡鉄道などからも表彰されています。



### Q.ボランティアを始めたきっかけは何ですか？

鉄道が大好きで、神岡鉄道ができた頃から駅周辺の清掃活動を始めました。そこから活動範囲が広がり、吉田川河川敷、神原峠、山田湖周辺など、他にも色々な場所のごみ拾いをしています。

### Q.清掃、ごみ拾いをされていて感じた事をお聞かせください。

道から川へ投げ捨てられたごみがとても多いです。特にコンビニ弁当の空容器、ペットボトル、缶、ビンが多いです。おむつ(大人用・子供用)もあり、落ちていた数が1つや2つではない事に驚きを感じています。缶の中にタバコの吸い殻を詰めている物があり、後処理に大変困っています。ビールの空き缶もあり、道路沿いなのに不思議に感じる事もあります。

また、団体でごみ拾いをする人はいますが、個人でごみ拾いを続けている人は少ないと思います。一人でごみ拾いをしていると、見かけた人から「落ちていた物を拾うなんて、徘徊しているのでは」と通報されることもありました。

拾ったごみは分別・洗浄してステーションに出します。例えば缶は、上蓋を開けるL字型の道具を使って、中まできれいに洗ってから出します。拾った方がいいが、「そのゴミをどうしたら良いかわからない。または、後処理に困る。」ので、ごみ拾いをする人が少ないのではないかと思います。実際、拾ったゴミを分別・洗浄して捨てるまでに、拾う作業の倍以上時間がかかります。それでも、少しでも地域のためになればと、「地域の小さな社会奉仕」を信条に活動を続けています。

身近なところでできることを自らすすんで活動する太田さんと、森田さん。  
きれいな町づくりへの取り組み、ありがとうございます。

声を掛けていただくのが励み。

楽しんで出来る限り続けたい。



## 森田 典子さん 朝浦

一緒に活動して頂ける方がいるとありがたいと森田さん。お声かけください。

### Q. ボランティアを始めたきっかけは何ですか？

以前はケヤキの木がたくさんあり、その葉っぱや枯れた木の皮がたくさん落ちてきていました。そのままにしておくと雨や風で町の方まで流れてしまうので、そうなる前にと5、6年前から近所の方と2人で清掃活動を始めました。現在は1人で朝6時から8時頃まで活動しています。

### Q. 清掃、ごみ拾いをされていて感じた事をお聞かせください。

栗のいがや葉っぱでいっぱい歩道は、滑って歩きにくく、見た目も悪く感じます。通学路なので子供が滑ったら危険だし、町外の人から「汚い町だ」と思われるのは悲しいです。たばこの吸い殻もよく落ちていますが、掃除をした後に見つけると、とても悲しくなります。初めはほうきを持って歩くことも恥ずかしかったです。草や葉っぱもごみとして捨てるので、「ごみの量を増やしているのでは」とか、市からごみ袋をもらっているため「税金の無駄使い」と言われたこともあります。それでも、暗いニュースが多い中、町まで落ち葉やごみだらけでは、心も暗くなってしまうので、せめて道はきれいであってほしいと清掃を行っています。

### Q. 清掃していて良かったことはありますか？

「ご苦労様です」や「ありがとう」「おはようございます」など、声を掛けてもらえると嬉しくなります。清掃後は身体はぐったりと疲れますが、心は豊かになる気がします。ボランティアなので「手伝ってほしい」とは言いにくいですが、誰か手伝ってもらえるとありがたいと思います。「今が青春」と思って、できる限り、楽しんで続けていきたいと思っています。

# 新型コロナウイルス

川村 和夫先生  
名古屋市在住  
弁護士43年目の67歳  
多趣味

新型コロナウイルスがやって来て、世界中の人々に、今まで何の支障もなくできていたこと、会話、会食、コンサート等々を、病気のリスクを伴う行為に変えた。感染する主体は個人のみならず社会でもあるから、自分は元気でも、家から出られないような事態も起きる。

感染リスクを最小にする方法は、どこにも出かけず、誰にも会わないことである。現実には、ほとんどの人にとって不可能なことであるが、相当数の人から理念的に尊ばれる行為として評価されている。新型コロナウイルスなしには生まれなかった価値観であろう。

感染しないことの価値は、病気になって苦しんだり命を落としたりしないこと、他人に感染させることがないこと、感染したことによって世間から指弾されたりすることがないこと、などが混在している。それらの価値と、家を出て人に会い、何かをずる価値との比較において、人は行動を決定している。その価値判断の基準が一人一人違うことが問題になるので、その基準の設定を行政に委ねようとする傾向も強い。まさに「自由からの逃走」である。移動の自由は、自由の中でもとりわけ重要なものであり、これを奪うことは、本質として罰である。自分の行動をどこまでの範囲にするかを自分で決めずに、行政が移動の自由を奪うことをよしとする人が大多数となれば、国の行方は危うく、日本が中国の属国となることも避けられない。

社会にとっても、全ての人が家において誰にも会わなくなることは、社会自体の崩壊を導いてしまうから、そもそも感染リスクを最小にする方法は選択できない。感染リスクがあっても、人が家から出て、人と会って何かをすることを許容する政策しか存在し得ないのである。どんなに通信手段が発達し、無人化が進んでも、人が家を出て、人と会い、何かをすることがない社会は、社会として存在し得ない。人と人とが現実に会うことなしには、文明も文化も維持することはできまい。それほど人と人とが現実に会うことの意味は大きいと思う。

新型コロナウイルスは、人と人との接触の削減をもたらし、IT化、オンライン化、リモート化を促している。しかし、他方、人と人とが現実に会うことのできる価値を、明確に分からせてくれたのではあるまいか。リモート面接では、有為の人材を見出すことは困難であり、また、オンライン飲み会には、種々の長所はあっても、飲み会において最も大切なもの、心の直接的接触が存在しにくい。勝海舟が西郷隆盛とオンラインで会談しても、江戸城無血開城はならなかったであろう。

私は、新型コロナウイルスが来て、親しい友人と酒を飲みながら清談に耽ることが、いかに素晴らしいことであるかを実感し、人生の終盤に来て、それが深く感じられることの喜びを思っている。



# 📺 インスタグラム始めました 📱

インスタグラムを始めました。主に会社の行事やサービスを紹介していきます。



左記の  
QRコードから  
簡単アクセス!



ぜひフォローをお願いします。

このコーナーでは、当社の社員が、環境衛生の仕事の現場で見たこと、感じたこと、あるいは仕事に関係のない趣味の世界を、交代で思いつくままに書き綴っていきます。



## 自粛から自衛へ

●令和元年入社 メンテナンス課所属  
松田 重男(まつだしげお)

緊急事態宣言は解除になったものの、未だ猛威を振るうコロナウイルス。私たちの生活は、様々な制限を受けています。

感染拡大防止処置の一つとして学校が休校になりました。その時の我が家の体験談を紹介します。我が家の家族構成は私達夫婦、高校生の長男、中学生の娘、母の5人家族です。長男は少し離れた高校に行くため別居していますが、コロナ自粛のために久しぶりに帰って来て過ごしました。最初の頃は子供たちも長期の休みを色々楽しみ、私も長男のお蔭で助かる事もあり、5人が楽しく過ごしていましたが、しばらくすると飽きが出て、友達と会えない、部活に行けず運動もできないなど、心と体の両方にストレスが溜まり、久しぶりの兄妹喧嘩となりました。しかし、子供たちの一番そばにいる嫁がホットケーキを焼いたりキャッチボールをしたり、私も長男と会話を多くしたりで家族のコミュニケーションが更に深まりました。

ある時、長男が「泳ぎたい!!!」と言いました。長男は水泳部です。「川で泳げよ」と言いつつもまだ寒く、仕方なく小さな組立プールを購入しました。ロープを体に縛り進めないようにして何とか泳ぐ事ができて、キラキラの笑顔になり娘も兄を見て喜んでいました。

私は常に、楽しく思えない事にも、何か少しでも楽しい事を見つけるようにしています。泣いても1日、笑っても1日。それなら笑っていた方が良い。コロナ、災害で悲しい事ばかり。それでも希望をもって明日を一生懸命に生きていきたいと思います。





# STOP!!

## 不法投棄

飛騨市、高山市共に不法投棄がなくならないという現状を踏まえての話です。

不法投棄とは、決められた処分場以外の場所に廃棄物を捨てることです。廃棄物には、大きく分けて「固形物」と「液体物」の2種類があり、どちらにも不法投棄があります。

まず、固形物の不法投棄についてです。不法投棄と聞いて思い浮かべるのは、山の中に捨てられている家財(家具、電気製品等)やタイヤではないでしょうか。そんなことはしてないよ、という方がほとんどでしょう。でも、それだけではありません。道路わきのポイ捨ての缶やペットボトルも不法投棄です。ギクツとした方はいますか?これらは全て固形物の不法投棄です。



森林での不法投棄



浄化槽

一方、液体物の不法投棄は、想像しにくいかもしれませんが、これは、建築物を解体する時に、汚泥(浄化槽汚泥や便槽の排泄物)の処分をせずに浄化槽や便槽を埋めて、汚泥を地下に浸透させることです。解体する前には、汚泥を引抜き、消毒する最終清掃が必要です。

不法投棄をなくすことは、地域の宝である自然を守ることに繋がります。不法投棄は絶対止めましょう。

※不法投棄は法律違反で、罰則があります。個人の場合は5年以下の懲役または1000万円以下の罰金、法人の場合は3億円以下の罰金です。原状回復も必要です。これくらいと思ったことが罪になるかもしれません。ルールを守って処分しましょう。

処分にお困りの場合は、当社までお問い合わせください。



**株式会社 神岡衛生社**

〒506-1147 飛騨市神岡町東雲375番地

TEL0578-82-0337 FAX0578-82-5846 URL <http://www.k-eisei.co.jp/>

ホームページからお問い合わせ、ご注文など承っております。なかなか電話する時間がない方も、そうでない方もお気軽にどうぞ。

### 業務内容

- 一般廃棄物収集、運搬
- 産業廃棄物収集、運搬
- 浄化槽維持管理(保守点検・清掃)
- 給排水、衛生設備工事
- 浄化槽施工、修理
- ビルメンテナンス(建築物清掃、貯水槽清掃、排水管清掃)
- 墓石、石碑等のクリーニング
- 中間処理場、最終処分場の運営、管理
- 環境分析  
環境計量証明事業所(岐阜県第19号)  
建築物飲料水水質検査業(岐阜県9水第11号)
- 下水道維持管理、補修(処理施設・管路施設)
- 産業廃棄物、一般廃棄物のリサイクル及びコンサルティング
- 電気工事 ●空調設備工事 ●換気設備工事
- 乾式清掃用具リース、販売
- 仮設トイレの賃貸、管理及び販売 ●各種関連商品販売